

【科目名】基礎実習		【担当教員】言語聴覚学専攻
【授業区分】 専門分野（臨床実習）	【授業コード】 5-32-1240-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】3年次 前期	【選択必修】必修	(オフィスアワー)
【単位数】2単位	【コマ数】20	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 事前に実習施設に関わる情報を収集し、必要な資料等を準備しておくこと。 実習施設へ行く前に、身だしなみを整えること。不適切な身だしなみの学生は実習を認めないことがある。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 実習の手引きを熟読しておくこと。 配当された実習施設及び病院で使用されている検査方法を確認しておくこと。 オリエンテーションを行うため、それに参加し実習を行ううえで必要な予備知識を備えること。 実習終了後は、グループ毎に発表を行うため、お互いに協力し合い発表準備を行うこと。 実習中に事故・事件その他の問題が起きた場合は、直ぐに実習先のスタッフ及び本学へ連絡すること。 ご協力いただく実習施設に対して決して失礼のないように臨むこと		
【講義概要】 (目的) 症例と向き合うためには言語聴覚療法実施上の総合的な能力を高めなければならない。そのため、基礎実習は患者と直に接するうえで必要なコミュニケーション方法、医療事故対策、感染対策、個人情報の保護の実践について学習する。専攻教員の指導の下、症例に対しインテークやスクリーニング評価を実施し、それらを習得することを目的とする。また、臨床評価実習に向けて、言語聴覚障害の着眼点、レポートの作成についても学習することを目的とする。 (方法) 4 コマを学外の施設にて、実際に対象者と接し、実際に評価を行う。その前には学内でオリエンテーション、評価法・内容の検討を行い、実習後には症例をまとめ、症例報告会を実施する。		
【一般教育目標(GIO)】 <ul style="list-style-type: none"> 臨床に必要な医療的基礎知識を述べることができる。 臨床実習を円滑に行うために必要な知識を述べることができる。 臨床実習を円滑に行うために必要な技術を実践できる。 		
【行動目標(SBO)】 <ul style="list-style-type: none"> 感染対策・事故防止を実践できる。 デイリーノートと症例報告書の記載方法を実施できる。 言語聴覚士として患者と関わることができる。 		
【教科書・リザーブドブック】 実習の手引き		
【参考書】 実習先に応じて指導する。		
【評価に関わる情報】		

平成 26～28 年度入学者用

(評価の基準・方法)									
成績評価基準は本学学則規定のG P A制度に従う。									
臨床評価実習のG P A、実習中の課題の内容から総合的に評価を行う。									
実習中の態度、取り組み方、実習の提出物、臨床能力（症例との関わり、教示の仕方、評価の適切性、評価結果に対する考察）、症例報告内容を総合的に判断し評価する。									
【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				10	10	80			100
評価指標	取り込む力・知識			10					
	思考・推論・創造の力					20			
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				
	学修に取り組む姿勢					60			
【授業日程と内容】									
回数	講義内容	授業の運営方法		学修課題(予習・復習)		時間(分)			
1-6	オリエンテーション	講義		オリエンテーション内容を振り返る		30			
7-8	実習計画立案	演習		実習で症例とどのように関わるか練習を行う		30			
9-10	学外実習（インターク）	実習		実習内容をまとめ、分からなかったことを調べる		30			
11-12	実習計画立案	演習		症例にどのように評価を行うか練習を行う		30			
13-14	学外実習（スクリーニング）	実習		実習内容をまとめ、分からなかったことを調べる		30			
15-16	実習まとめ	演習		症例についてわからないことを調べる		30			
17-19	症例報告会	講義		他班の症例についてわからないことを調べる		30			
20	まとめ	講義		評価実習に向けての計画を立てる		30			

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。